

## 第 2 回那珂市総合開発審議会における委員からの主な意見

## 1 市民協働・男女共同参画

- ・ 20代の意見をどのように反映させるかということは、那珂市に限らず今後の課題である。
- ・ 男女共同参画のイベントを開催すると、男性の参加が少ない。市でもできるだけPRをしてもらいたい。
- ・ 障がい者や身体の不自由な高齢者など社会的弱者も意見を出せるように、FAXで返信できるようにしたり、返信用封筒を入れたりするとよい。
- ・ 本当に行政が旗を振って、コミュニティの充実・強化を図ろうとしているのか、普段から疑問を持っている。この後、基本計画、実施計画と落としていくときに、具体的に何をやりますということが入ってくるのか心配だ。

## 2 空き家対策

- ・ 消防団で夜警をしているが、空き家が増えて回りきれない。
- ・ 全国的に空き家対策が進んでいる。例えば、空き家の有効活用として、空き家バンクを創設したり、若しくは行政代執行により危険な建物を取り壊したりするという計画に盛り込むことができればよい。
- ・ 福祉においても、たまり場や語らいの場をいかにして作るかが課題である。そういう意味では、空き家を有効活用して何かできないか、行政の方でも真剣に対応してく必要がある。
- ・ 空き家を市が買い上げて、それを自治会やコミュニティに貸し出し、たまり場とか集会所にするような取り組みも全国では始まっている。そうしたことも計画の中に位置付けられればよい。

## 3 交通基盤・公共交通

- ・ 高齢者の立場からすると、交通が問題だ。主要な通りにおいては、交通機関を確保しておくことが肝要だ。
- ・ 市民アンケートの結果では、交通の利便性が最も低い評価になっている。市の大きな課題だ。
- ・ 車椅子ユーザーは公共交通機関で乗れる物がない。公共交通機関の利便性を高めるといふところをもう少し検討する必要がある。
- ・ 通学路の安全確保ということだが、草が繁茂している状態の中で、子どもたちが自転車に通学している。夜間は特に危険であるため、行政の方で草刈りをお願いしたい。

## 4 下水道

- ・ 効率的に生活排水を処理するとあるが、汚水処理人口普及率の推移を見ても進捗が遅い。自治体の財政負担が大きいので難しいと思うが、こうしたことが置き去りにされないか心配だ。

## 5 地域福祉

- ・現在、那珂市には一人暮らしの高齢者が約1,000人いる。地域の見守り体制ができていないと超高齢化社会になった時に大変だと思う。防災課、市民協働課、まちづくり委員会、民生委員が一体となった取り組みを計画してもらいたい。
- ・地域福祉の充実と文章では表現できるが、実態として、地域の付き合いは希薄だ。具体的にどうするか考えなければならない。

## 6 観光・特産品

- ・行政は、有るものを活かすことに重点を置くべきだ。歴史・文化で例を挙げると、額田の「たっつあい」が最たるものだ。
- ・「たっつあい」から派生した七運汁や七運物語が市民に広まればよい。
- ・那珂市にある潜在的な資源をいかに掘り起していき、それをまちづくりに活かしていくかということを経営の中に盛り込めるとよい。

## 7 行政運営

- ・計画を作るときは、総花的になるので、優先順位を定めて、それを住民に知らせて、合意形成を図っていく必要がある。
- ・那珂市は、水戸市を中心市とした定住自立圏に入った。これからは、定住自立圏構想の中における総合計画の策定というものを想定しなければならない。医療や公共交通など、各分野にわたっての連携を総合計画の中でしっかりと図る必要がある。

## 8 人口減少・少子高齢化

- ・人口減少問題について、具体的な少子化対策が見えてこない。
- ・幼稚園や小学校がなくなると、地域の魅力もなくなる。これからは、若くて、税金を納められる人が那珂市に住むような方向に持って行ってもらいたい。